

2025

発行日 毎月1日 通算発行 465号



協会報

1



新春を迎えて『令和7年新年あいさつ』

(一社)石川県建設業協会会長 鶴山庄市

新春ご挨拶

巳年は語る



白山白川郷ホワイトロード「雲海越しの日の出」

白山白川郷ホワイトロードは、白山市から岐阜県白川村を結ぶ全長33.3kmの有料道路で、白山国立公園内の美しい景色やダイナミックな風景が楽しめる。表紙の写真は、雲海越しに日が昇る瞬間をとらえた貴重な一枚。9月下旬から11月上旬、気温や天候等の気象条件が揃えば、日の出に限らず雲海が広がる絶景に出会うことができる。

“未来”を創り“ふる里”を守る建設産業

発行所 ● 一般社団法人

石川県建設業協会

〒921-8036 金沢市弥生2丁目1番23号
TEL (076) 242-1161(代) FAX (076) 241-9258

URL: <http://www.ishikenkyo.or.jp/>



白山白川郷ホワイトロード
「雲海越しの日の出」

CONTENTS 1

1	新春を迎えて	1
	『令和7年新年あいさつ』（一社）石川県建設業協会会長 鶴山庄市	
2	新春ご挨拶	
	石川県知事 馳 浩	2
	一般社団法人全国建設業協会会長 今井雅則	3
	厚生労働省石川労働局長 八木健一	4
	国土交通省北陸地方整備局金沢河川国道事務所長 五十川泰史	5
3	巳年は語る	6
	水内健之、向出剛一、橋場匡基、山崎貴文、橋本和宏、清田典廣	
4	今月のトピックス	
	馳知事を囲む懇談会の開催	9
	県選出国会議員に対する要望活動	11
5	災害復興の足音	12
6	人材育成・確保	
	国土交通省、建設産業人材確保・育成推進協議会主催 令和6年度「高校生の作文コンクール」入選作品の紹介	13
7	今月の「輝き！」さん No.117	15
	株式会社吉光組 久保心輝さん	
8	協会だより	
	（一社）石川県建設業協会・石川県総合建設業協同組合理事会の開催	16
	建設青年委員会	
	全国建設青年会議第29回全国大会への参加	16

“未来”を創り“ふる里”を守る建設産業



一般社団法人
石川県建設業協会
GENERAL CONSTRUCTION ASSOCIATION

- > ホーム
- > 協会案内
- > お知らせ
- > 講習会・研修会
- > 協会報
- > 指名競争入札参加
- > お問い合わせ

“未来”を創り
“ふる里”を守る
建設産業



イメージアップ工事着飾
未来への扉「石川をつくる」

今月の
「輝き！」さん

現場で活躍する
女性ロカコイイ

建設共済保障



こちらで地区協会等の
情報発信をしております。
ぜひご覧ください。



ホームページをご覧ください

新春を迎えて

『令和7年新年あいさつ』

(一社) 石川県建設業協会会長
鶴山庄市



令和7年の新しい年を迎え、新春のお慶びを申し上げますと共に、協会の皆様のご隆昌を心からご祈念申し上げます。

平素、国・県などの行政機関の方々、建設産業の方々には、業界の振興発展に格段のご理解・ご支援を賜り、改めて感謝お礼申し上げます。

さて、昨年元日に発生した能登半島地震の復旧には、協会の皆様には発災直後から資材の運搬・道路啓開作業などに当たって頂き、本当に有難く頭の下がる思いです。そして、震災復旧工事に対応していこうという矢先に奥能登地域を襲った豪雨災害。能登地区の会員企業の皆さんには、打ち拉がれた状態だったと思います。能登地区は多重被害とも言われる状況にあって、地区の会員の皆さんは元より、県内各地区協会会員企業から数多くの方が班編成を組んで、それぞれの担当地区を一日でも早くとの思いで復旧作業に当たって頂きました。宿泊場所も無い中での車中泊、そして使用機械・食料も自前調達という劣悪な環境の

中、献身的に作業に当たられた事に心から感謝お礼申し上げます。

「地域を守る」という協会の基本スローガンの元、その活動は大変尊いものと思います。今、能登地区は建物解体作業が順調に進み、地域の景色は変わってきました。これからの能登がどう生まれ変わっていくのか多くの人々の意見を集約しながら、自然豊かで農林漁業の盛んな地域の特色を生かした復興が成されていく為にも、社会インフラ・生活インフラの復旧に全力で取り組んでいく事が、私達の使命だという事を協会員の皆さんと強く共有したいと思います。

また、能登地区以外の県内各地にあって、生活の利便性向上の為、経済活性化の為、そして、防災減災の為に積極的に土木工事・建築工事が行われています。只、近年の資材の急激な価格上昇・人口減少などによる人手不足が工事の円滑な施工に大きな障害となっています。受注価格・発注価格の適正化や魅力ある建設産業となっていく為に、これからも不断の努力をしなければなりません。適正な設計価格・週休二日制を組み入れた適正な工期など、官民間わず、粘り強く働きかけていくべきかと思います。発注の平準化も大切な事柄です。

能登地区の会員企業では、震災の影響で一部離職者が発生しました。それでも、皆さんは一生懸命工事に携わっていらっしゃいます。権限代行による大手業者のお手伝いも精力的に担っています。復旧復興工事が本格的に始まる本年が、能登復興の元年でもあります。そして、能登を離れた人もふるさとの復興作業に携わってもらい、また、新たな人々に参加してもらう事によって、能登地区の業界の活力が一日でも早く戻る事を心から願っています。関係機関の皆さまには、どうか息の長い取り組みになるかと思いますが、よろしくご理解ご支援賜りますようお願い申し上げます、年頭のご挨拶といたします。

新春ご挨拶



『能登の創造的復興に向けて』

石川県知事 馳 浩

令和7年の年頭にあたり、県民の皆様にご挨拶を申し上げます。

昨年、元日に発生した令和6年能登半島地震は、県政史上未曾有の大災害となりました。さらに、昨年9月21日に発生した令和6年奥能登豪雨は、線状降水帯の発生により、地震から8カ月余りしか経たない中、復旧・復興の途上にある被災地を襲った複合災害となりました。

地震の発生から1年の節目となる今年1月1日には、ご遺族の方々をはじめ、関係者の参列のもと、犠牲者追悼式を開催しました。改めてお亡くなりになられた方々の御冥福をお祈りするとともに、被害に遭われた皆様方に心からお見舞い申し上げます。また、国内外の皆様からさまざまな支援をお寄せいただきましたことに対し、改めて深く感謝申し上げます。

能登は、本県の中でも特に人口減少と高齢化が進んでいる地域であり、単に被災前の姿に復元するのではなく、未来志向に立って、持続可能な地域を目指す「創造的復興」の視点が必要です。

そのための道筋を示すため、県では、有識者からなる「復旧・復興アドバイザリーボード」や、住民自らがこれからの能登を考える「のと未来トーク」などでいただいたご意見をふまえ、昨年6月に「石川県創造的復興プラン」を策定しました。

スローガンには「能登が示す、ふるさとの未来」を掲げ、13の「創造的復興リーディングプロジェクト」をはじめ、さまざまな取り組みを盛り込んでおります。

その一つとして、被災者のニーズと全国からの支援を効果的に結び付ける「能登官民連携復興センター」を昨年10月に設立しました。当センターをハブとして、産学官の力を結集し、復興を促進するとともに、支援を契機とした関係人口の拡大も図ってまいります。

また、県内外の学生に地域での学びの機会を提供する「いしかわサテライトキャンパス」構想の一環として、特に能登地域において、学生ボランティアと地域との交流を促進するプログラムを設けているところであり、今後、さらなる充実を図ってまいります。

さて、昨年は、災害が相次いだ一方、県民にとって希望となるような出来事もございました。特に、昨年3月には、50年来の悲願であった北陸新幹線の県内全線開業が実現し、南加賀地域と首都圏が新幹線につながるとともに、北陸三県が一時間圏内で結ばれました。県では開業効果を県内全域に波及させるとともに、一日も早い大阪までの全線開業の実現に向けて、国に働きかけてまいります。

また、今後は、地震と豪雨からの復旧・復興を県政の最重要課題として取り組んでいくと同時に、令和5年9月に策定した県政の羅針盤である石川県成長戦略を具現化していかなければならないと考えています。

地震と豪雨の複合災害からの創造的復興は、これまで本県が経験したことのない長く険しい道のりとなります。皆様には、引き続き、県政に対するご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、国や市町と連携し、一日も早い創造的復興の実現に向け、全力で取り組んでいくことをお誓い申し上げ、年頭のご挨拶といたします。



『令和7年 年頭所感』

一般社団法人全国建設業協会会長 今井 雅 則

令和7年の新春を迎え、謹んで年頭の挨拶を申し上げます。

平素は、全建の事業活動に対し格別のご支援・ご協力を賜り、深く感謝いたします。

地域建設業を取り巻く環境は、昨年も資機材価格の高騰等の影響を大きく受けたほか、能登半島を襲った地震・豪雨の二重災害や日向灘地震など、全国各地で大規模な災害が発生し、土砂崩れや河川の氾濫等により多くの国民の生命・財産に甚大な被害をもたらした1年となりました。地球温暖化による豪雨・豪雪の増加、熱中症や感染症への懸念も深刻さを増しています。

地域建設業は、社会資本整備や維持管理の担い手として地方創生の中心的な存在であり、災害時には最前線で復旧・復興に取り組む「地域の守り手」としての使命を担っています。これらの社会的使命を担う建設業が存在し続けるためには、健全で安定した経営が必要であり、そのためには、見える化された安定的・持続的な事業量が必要です。そして、それを基にした経営の見通しが立つような長期的事業計画を持つことが不可欠です。

このため、全建といたしましては、公共事業費を含む令和7年度予算の早期成立とともに、引き続き、国土強靱化実施中期計画の早期策定や同計画における現加速化対策を大幅に上回る事業量の確保を求めてまいります。

また、将来の担い手確保のため、建設業で働く人々や建設業を目指す若者が、夢と誇りをもって活躍できる希望に満ちた、憧れの産業となるよう、“新4K”の実現に向け、処遇改善、働き方改革の推進や生産性の向上等を早急に進めることも重要です。

全建といたしましては、公共工事設計労務単価の一層の引上げと、建設業従事者の賃上げのための現場管理費、一般管理費の引上げを求めるとともに、昨年4月から時間外労働の罰則付き上限規制が建設業にも適用されたことも踏まえ、「2+360（ツープラスサンロクマル）運動」、「目指せ！建設現場 土日一斉閉所運動」を進めるほか、ICT・DXの推進、広報活動等にも引き続き積極的に取り組んでまいります。

本年も、全建は47都道府県建設業協会並びに会員企業の皆様方と一体となり、地域建設業発展のため全力で取り組む所存でございますので、ご理解とご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

結びに、皆様方の益々のご多幸とご健勝を祈念し、また建設業が大きく飛躍することを願ひまして、私の年頭の挨拶とさせていただきます。



『年頭のごあいさつ』

厚生労働省石川労働局長 八木 健一

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

石川県建設業協会の皆様には、日ごろから、石川労働局の行政運営に格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、1月1日の能登半島地震、9月の奥能登豪雨と、大きな災害に見舞われた年でした。引き続き、ハローワーク、労働基準監督署、石川労働局一丸となって、被災された事業所や労働者に寄り添いつつ、雇用の維持・確保、工事における安全・衛生の確保などに取り組んでまいりますので、能登地域の一日も早い復興を期待しております。

一方、最近の県内の雇用情勢は、能登半島地震による影響を受けつつも、有効求人倍率は1.50倍を上回っており、人手不足の状況が見られます。人材確保対策として、地方公共団体や各業界団体と連携し求人充足支援を行ってまいります。

また、高齢者、障害者、若年者、女性など、多様な人材の活躍促進のため、マッチング機能の強化に取り組んでおります。

加えて、今年度大幅な引上げとなった最低賃金の周知とともに、賃金引上げに向けて取り組む事業場を支援してまいります。

また、安全で健康に働くことができる環境づくりを図るため、長時間労働の抑制、過重労働による健康障害防止等について、取引慣行の見直しを促すなど、関係機関と連携し周知、支援に努めるほか、第14次労働災害防止計画の2年度目として、目標達成に向けて取り組んでまいります。

さらに、働きやすい環境づくりや不合理な待遇差の解消を目指すため、職場のハラスメント防止対策、男女の育児休業取得促進、同一労働同一賃金の実現などについて法の適正な履行を図ってまいります。特に、令和7年4月1日から改正育児・介護休業法が施行され、仕事と育児・介護を両立できる職場環境への整備を働きかけてまいります。

石川労働局では、今後も、関係機関・団体とも連携を密にし、労使・県民の皆様の期待に応えてまいりますので、皆様には、各種施策の周知・広報、相談対応などに引き続きのご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに、貴会の益々のご発展と、会員の皆様のご活躍・ご健勝をご祈念申し上げまして、年頭のご挨拶といたします。



『新年挨拶』

国土交通省北陸地方整備局金沢河川国道事務所長 五十川 泰史

新年あけましておめでとうございます。謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

石川県建設業協会の皆様には、日頃より、国土交通行政、とりわけ石川県内の社会資本の整備や維持管理、防災対策等の推進にご理解・ご協力・ご尽力を賜り、この場をお借りして御礼申し上げます。

昨年は、元日の能登半島地震、9月の豪雨災害と、石川県では能登地域を中心に、未曾有の災害に2度見舞われました。発災後の道路啓開・応急復旧にあたっては、貴協会の皆様にも、中には自らも被災されながらも大変なご尽力を賜り、誠にありがとうございました。復旧・復興に向け、直轄権限代行で実施しているのと里山海道などの復旧事業に全力で取り組んでまいります。

また、令和4年8月の大規模な浸水被害を踏まえた梯川の緊急治水対策や手取川の西川・熊田川合流点処理事業をはじめ、手取川・梯川、白山砂防、石川海岸で進める治水対策、ミッシングリンクである能越自動車道田鶴浜七尾道路、金沢都市圏の交通円滑化に向けた金沢東部環状道路などの改築事業や交通安全対策、電線共同溝整備による無電柱化等、直轄国道の整備、長寿命化対策などの維持管理等を引き続き推進します。特に今年は、国道8号加賀拡幅の全線4車線化、国道159号羽咋道路の一部区間の開通を予定しております。

冬期の道路交通確保も、関係機関と情報共有・連携を図り、除雪作業受注者のご尽力を頂きながら、適時的確な対応に努めてまいります。

昨年は、犀川大橋が開通100周年を迎え、「百寿祭」を開催しました。防災・減災、国土強靱化や生産性向上等に資する社会資本の整備や維持管理、環境づくり等、私どもの使命は多岐にわたりますが、その実施は、「地域の作り手・守り手」である建設業の皆様のご協力があってこそ推進できるものです。引き続きご協力をお願い致します。

また、人口減少が加速するなか、担い手確保も大きな課題です。物価高騰に対応した適正な積算や週休2日の普及拡大、ICTの導入などによる待遇改善や生産性向上に向けた取組を推進してまいります。

このように、様々な課題やニーズへの対応が求められておりますが、皆様からのご意見なども踏まえ、誠心誠意取り組んでまいります。

結びに、本年が「実を結ぶ」輝かしい年となりますよう、貴協会と会員、並びに従業員・ご家族の皆様のご益々のご発展、ご健勝を祈念いたしております。

本年もどうぞよろしくお願い致します。



巳年は語る



水内健之（昭和28年7月12日生）

城東建設株式会社 取締役

新年あけましておめでとうございます。

昨年、弊社は創業100周年、創立80周年を迎えました。これからも次のステップに向けて精進してまいります。

社長業も数年前、長男に引き継ぎ皆様のお世話になっております。最近は時間もできましたので、各地へ旅行をしています。沖縄、鹿児島、桜島、指宿、島原、黒川温泉、伊豆半島、富士山、大阪、名古屋、そして最近パラオ共和国へ行ってきました。パラオでは、シュノーケリングや釣り、セスナ遊覧は素晴らしかったです。

これからも趣味をもう少し増やし、楽しい人生を送りたいと思っています。



パラオ共和国「セブンティア일랜드」

向出剛一（昭和40年10月27日生）

株式会社向出組 代表取締役会長

年が明け、私事ですが還暦を迎えることとなりました。乙巳(きのとみ)に生まれ、再び同じ暦に還れたのも、家族、社員、先輩や友人など、多くの人のお陰であることを改めて感じています。

昨年は能登を中心とした大きな災害に見舞われ、たくさんの皆さんが大変なご苦勞を経験され、現在も苦しんでおられる中ではありますが、それを応援する人々の心を知ることでできた一年でもありました。乙巳はこれまでの努力や準備が実を結び始める時期を示唆しているとか、どうか本年は復興が実を結び、穏やかな一年とならんことを願うばかりです。私も地域建設業の一員として、そのお手伝いが出来ればという思いを新たにしております。

写真はオートバイでのツーリング中の一枚です。ぜひとも復興した能登にツーリングに行きたいと思っています。



小中出副会長とともに 右が私

橋場匡基 (昭和52年4月23日生)

大日土建株式会社 代表取締役社長

新年あけましておめでとうございます。

ちょうど前回の巳年の2013年に社長に就任しまして、はや12年が経ちました。建設業にとってはこれまでの逆風だった状況から、アベノミクスの始動により、明るい兆しの中での社長のスタートだったのを今でも強く感じています。

また、この12年間の出来事として、東京オリンピックの開催決定、コロナにより無観客開催、平成から令和に、また何よりも自然災害が当たり前のように頻発し、想定外が想定内となった気がします。我々、建設業が担っている、地域の安心安全を守る事への使命感はより一層高まりました。

また、自分自身の12年を振り返ってみると、少年サッカーの指導者、ゴルフを始めてちょうど12年が経ちました。どちらもまだまだ成果は上がっていませんが、次の12年ではサッカーでは全国大会出場、ゴルフではコンペ優勝等、晴れ晴れしい結果を達成したいなと思っております。今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。



前列左から2人目が私 少年サッカーのメンバーとサッカー日本代表OB

山崎貴文 (昭和52年11月9日生)

株式会社山崎組 代表取締役社長

新しい年を迎え、皆様に心よりご挨拶申し上げます。最近は何年賀状と共に干支への意識もすっかり薄れてしまったように感じます。思い返すと、私にとって大きな転機はやはり健康と向き合ったことだと思えます。

若いころの私は体も大きく運動なんて縁遠い話で、走ることはおろか歩くのすら好きではありませんでしたが、一念発起して減量に取り組み、20キロ以上の減量に成功しました。今では白山登山や金沢マラソンを楽しむまでに変わりました。

この経験を通じて学んだのは、健康も安全も「日々の積み重ね」が何より大切だということです。自分自身の変化が嬉しくて、社内でも健康づくりを広め、「健康経営優良法人」の認定を受けることができました。健康維持の意識は現場の安全にもつながり、日々の業務においても確かな成果を生んでいます。

本年も健康第一、安全第一で、社員一丸となり、業界の発展と地域社会に貢献してまいります。皆様にとっても、健やかで笑顔あふれる一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。



昨年の金沢マラソンに出場しました

橋本和宏（昭和52年11月17日生）

兼六建設株式会社 代表取締役社長

新年あけましておめでとうございます。

昨年、能登半島地震、豪雨災害において、被災された方々へ謹んでお見舞いを申し上げます。

震災から1年、復興への出発の年「乙巳(きのとみ)」。新しいことが始まる年とのこと。社会資本整備を担う建設業として、復興に取り組み、成長した石川県となるよう、全社一丸となって取り組んでいく所存です。

個人的には、48歳を迎えます。まだまだ若手と言われますが、お腹は出るし、腰は痛いし、少しずつ老化現象が始まっていると思う今日この頃。しっかりと健康に留意し、社業の発展、業界の発展に、諸先輩方のご指導、ご鞭撻をいただきながら邁進していきたいと思えます。本年もよろしくお願い致します。



七五三

清田典廣（昭和52年11月18日生）

北浜建設株式会社 代表取締役

新年明けましておめでとうございます。今年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

協会より投稿依頼をいただきまして、自分が年男だったことに気づきました。身体が資本の私たちの仕事、2年前より不摂生改善や体力維持のためウエイトトレーニングでの身体づくりと食生活に気を使っております。

「ゴツイですね」とかたまに言われることがありますが、自分では全く思っておりません。むしろ真剣にされているトレーニー達に失礼。今年は各部位更なる筋肥大に励み、肩幅3センチ増を目標にしたいと思えます。筋肉が建設業界の雇用を助ける事を信じて。



フィジーク大会に参加

◆ 今月のトピックス ◆

馳知事を囲む懇談会の開催

開催日時 令和6年12月19日(木) 15:30~17:20

開催場所 金沢東急ホテル

出席者 石川県 馳 浩知事

櫻井 亘土木部長、本田 琢技監、鈴木裕司土木部参与、

三谷浩二郎土木部次長、長 秀之土木部監理課長

協会 正副会長、県・地区協会役員 計60名

概要

冒頭、鶴山庄市会長の「知事をはじめ県の皆様方には、災害の復旧・復興に昼夜問わず精力的に当たっていただき感謝と御礼を申し上げます。また、昨年度要望の県防災会議への参画が叶ったことに対しても感謝を申し上げます。本日は災害対応がメインだが、各地区協会を含め、次年度に向け様々な要望をさせていただくので是非ご理解をお願いしたい。」と挨拶。続いて馳知事が「県建設業協会の皆様には、元日以来、本当に素晴らしい活躍をしていただいております感謝申し上げます。冬を迎えようとするこの時期、我々もできることをしっかりとやって行きたい。今後も息の長い戦いとなるので、継続して仕事に入っていただける環境づくりにも配慮したい。」と挨拶されました。

要望懇談では、協会側を代表し山岸 勇専務理事が要望書に基づき、能登地域の創造的復興、公共事業予算の持続的・安定的な確保と防災・減災、国土強靭化対策の着実な推進など7項目について要望を行いました。引き続き、各地区協会長から地域の重点的な要望事項について説明を行い、知事及び土木部幹部がこれに答える形で進められました。要望に対し県側から前向きな発言があり、詳細な回答は後日文書でいただくこととしました。真柄卓司副会長の挨拶で閉会しました。



馳 浩知事



鶴山庄市会長



懇談会会場

〈石川県建設業協会の要望事項〉

1. 能登地域の創造的復興（地震、豪雨災害からの早期の復旧・復興）
2. 公共事業予算の持続的・安定的な確保と防災・減災、国土強靱化対策の着実な推進
3. 地元建設企業の受注機会の確保
4. 第3次担い手3法に基づいた適正な入札・契約制度の実施
 - (1) 予定価格の適正な設定と適時・適切な設計変更
 - (2) 発注・施工時期の平準化と適正な工期設定
 - (3) 最低制限価格の引き上げと上限撤廃
 - (4) 資材価格の急激な変動に対する適時・適切な対応
5. 担い手の育成・確保に向けた働き方改革と生産性向上
 - (1) 週休2日制定着に向けた環境整備
 - (2) 熱中症対策
 - (3) 書類の簡素化・合理化と業務の効率化
6. 安全・安心な災害活動（災害協定の見直し）
7. 持続可能な除雪体制の確保

〈地区協会の要望事項〉**【珠洲建設業協会】**

- ・地域振興と安全・安心して暮らしを支える幹線道路復旧について
- ・農林水産業の早期復興について
- ・被災者の住宅確保について
- ・地元建設業の受注機会の確保について

【鳳輪建設業協会】

- ・能登半島地震並びに豪雨における災害に対応した広域交流幹線軸道路網の復旧・復興整備促進について
- ・砂防・地すべり・急傾斜地崩壊対策事業の復旧・復興整備促進について
- ・二級河川の復旧・復興整備と維持管理について
- ・港湾・漁港の復旧・復興整備促進について
- ・復旧工事の発注調整について

【七尾鹿島建設業協会】

- ・地震災害からの復旧・復興について
- ・地域建設業の持続的発展について

【羽咋郡市建設業協会】

- ・災害時における緊急輸送道路として、また、安定した物流の確保を可能とするための道路網の早期回復及び機能強化について
- ・隣県とのアクセス性を確保し交流人口拡大と地域活性化を支援する国道415号（県際道路）の早期事業化について
- ・防災・減災対策を充実・強化し、安全・安心な暮らしを支えるため、治水安全度向上と治水対策促進について

【河北郡市土建協同組合】

- ・安全・安心なまちづくりについて

【白山野々市建設業協会】

- ・地震・豪雨災害について

【小松能美建設業協会】

- ・能登半島地震の活動状況について
- ・暮らしを支えるライフラインの整備促進について
- ・安全・安心の確保に向けた道路・河川の整備促進について

【加賀建設業協会】

- ・大規模災害を想定したダブルラダー構想の強化と整備促進について

【金沢建設業協会】

- ・安定かつ持続的な公共事業予算の確保と経営安定化への支援
- ・地震災害からの早期復旧・復興
- ・改良土の利用拡大による循環型社会の形成

県選出国會議員に対する要望活動

石川県建設業協会は、12月16日(月)、石川県選出の自民党国會議員に対し、能登地域の創造的復興、公共事業予算の持続的・安定的な確保と防災・減災、国土強靱化対策の着実な推進等4項目を要望しました。

鶴山庄市市長、真柄卓司副会長、中市勝也副会長、小中出佳津良副会長、山岸 勇専務理事が、岡田直樹参議院議員、佐々木 紀衆議院議員、西田昭二衆議院議員、小森卓郎衆議院議員、宮本周司参議院議員と面会し、要望書を手渡しました。

岡田参議院議員はじめ国會議員の皆さんから「能登地域の復興は国の重大な責務であるとともに、防災・減災、国土強靱化対策の着実な推進に向け、必要な予算が確保できるよう、国会でしっかりと取り組んでいく。」との力強いお言葉を頂きました。

なお、国會議員への要望に先立ち、正副会長、専務理事は国土交通省 吉岡幹夫事務次官、山本 巧道路局長、藤巻浩之水管理・国土保全局長等国土交通省幹部を訪れ、現地状況や要望事項等を説明しました。



【要望事項】

- 1 能登地域の創造的復興
- 2 公共事業予算の持続的・安定的な確保と防災・減災、国土強靱化対策の着実な推進
- 3 地元建設業者の受注機会の拡大
- 4 適正な入札・契約制度の実施と働き方改革の推進

“未来”を創り“ふる里”を守る建設産業



災害復興の足音

木造仮設住宅の建設

令和6年能登半島地震では6,882戸の仮設住宅が建設されましたが、県内建設業界の各社も厳しい道路事情の中、作業用宿泊場所の確保にも苦心しつつ、早急な住まいの確保に尽力しました。

特に木造仮設住宅は1,603戸建設され、その役割において仮設住宅としての利用が終了した後の恒久的な使用が想定されており、まとまった敷地で地域のコミュニティを確保する「まちづくり型」が28団地1,570戸、小規模な敷地で戸建て風の「ふるさと回帰型」が4団地33戸建設されました。

また、仮設住宅ではバリアフリーや上下階の振動・音の問題から平屋とすることが一般的ですが、被災地における住宅用敷地の確保が困難なことから、これまでの災害では無かった木造2階建ても建設されました。

さらに、令和6年9月に発生した奥能登豪雨による被災を受け、追加された仮設住宅は、全て木造による建設が進められています。



①まちづくり型（志賀町）



②ふるさと回帰型（穴水町）



③木造2階建（珠州市）

石川県建設業協会では、行政と連携を取りながら一刻も早い復旧・復興に向け、引き続き各種業務に従事してまいります。

がんばろう能登！ がんばろう石川！

人材育成・確保

国土交通省、建設産業人材確保・育成推進協議会主催 令和6年度「高校生の作文コンクール」入選作品の紹介

国土交通省、建設産業人材確保・育成推進協議会主催の令和6年度「高校生の作文コンクール」で、金沢市立工業高等学校土木科3年中野歩夢さん、同校土木科3年宮下太久郎さんの応募作品が優秀賞に選ばれ、12月5日(木)、同校を訪れた国土交通省北陸地方整備局の勝見康生建政部長から両名に表彰状が贈られました。



写真左から勝見康生建政部長、宮下太久郎さん、中野歩夢さん

作文

当たり前をつくる仕事

金沢市立工業高等学校土木科3年 中野歩夢

今当たり前だと思っている生活の裏には、多くの人が汗水を垂らして働きこの世界を作っています。その世界にただ生きているのではなく、人が住みやすく生きやすい世界を作ることに興味を持つことが重要だと考えています。しかし、土木の仕事はしんどいし汚いと思う人も中にはいると思います。それでも私が土木の仕事をしたいと決心した理由があります。

私が現在在籍している工業高校の土木科に入学しようと思った理由は、世界のたくさんの人に利用されている道路や橋を自分自身の手で作ってみたいという興味を持ったことと、県内では唯一の土木科があるという所に魅力を感じたからです。私たちの暮らす石川県では他県に比べて地震が起こりやすく、普通の道路よりも強度のあるものを作る必要があると思います。そのために必要な知識を学ぶには私が工業高校に入学する必要があり、自分でたくさん調べて出てきたのが現在の工業高校でした。興味は持っていたけど、最初は勉強についていけるのかという不安や、本当にここで良かったのかと思うこともありました。それでも、私の夢である「地域の方々から感謝される仕事をする」ことを実現させたいという気持ちをモチベーションにここまで来ることが出来ました。そして、約2年半でたくさんの専門的知識や技能を得ることで半年後の就職に向かっていきます。世界の人々に利用されている道路や橋を作るのには1つの会社だけでなく、いくつもの会社の協力があり作り上げられています。私は当たり前のように道路や橋、ライフラインを作り人々の生活を支える仕事に強い憧れを持っています。それらは人が生きる上で重要な役割を持っています。そんな中、2024年1月1日に能登半島地震が発生しました。毎日当たり前のように通過していた道路が通れない程歪んだり、ひび割れしたりしているのを目の当たりにした時に大きな絶望と強い気持ちが生まれました。日常生活が壊された悔しさと、私たちが暮らしていた綺麗な景観から少し離れてしまったことに対する絶望はとても大きかったです。また、断水や停電により生命に危機的状況が強いら

れている地域がたくさんあったことは同じ県民として悲痛でした。それでも、綺麗な景観を取り戻したいという気持ちと自分が役に立つ事が出来る最大のチャンスだと思ったことと、1日でも早くの復興をして辛い思いをしている人のために、どんなにしんどくても人々の笑顔を取り戻し、たくさんの人々を支えることが出来る土木の仕事をしたいと決心しました。

今まで通りの石川県を取り戻すためだけでなく、突然の自然災害による崩壊を防ぐためにもこれからの半年間は日々の学びを大事にしながら、夢である「地域の方々から感謝される仕事をする」を達成させると共に、人々の当たり前を守れる人になりたいと思います。

作文

それでもやっぱり

金沢市立工業高等学校土木科3年 宮下太一郎

私は高校の友達とこんな話をする。「この学校で一番すごい科はどこなのか」この話になった時いつも土木科だけが一番最初にすごくないと言われる。機械科は車を電気科は電気を電子情報科はスマホを建築科は家や建物などを武器として挙げてくる。私はダムや道路、トンネルなどを武器に挙げるが他の友達に「それって地味だね」と言われる。いつもそんなことないと思いつつこの話をしている。

私が工業高校の土木科を志望した理由は親戚のおじさんが土木関係の仕事をしていて私が進路に困っていた中学二年生の時に現場で働いている姿を見させてもらったことがきっかけで高校では土木を学びたいと思ったからである。だが決め手はこれだけではない。その時おじさんはこんなことを言っていた。「建物を建てるわけでもなく設計をするわけでもなく地味な基礎の作業だけどやはり建物が建った時にはとても達成感がある」と。この言葉を聞いた時に私はとてもかっこいいと思った。その思いを胸に私は土木科に入学した。高校で学ぶ土木工学はどれも新鮮でますます土木のことが好きになった。そんな矢先土木科は地味と言われた。私は意外だった。こんなにもかっこいい土木の仕事が地味と言われるなんて。理由を聞いてみると目立たない仕事、すごい発明をしていないなど色々なことを言っていた。考えてみればそう言いたい気持ちもわかる。何かを発明したり、建物として目に見えて目立つような仕事の方がかっこいいのかもしれない。だがその目立つ仕事を陰ながら支え、地味と言われてもなくてはならない存在というのもとてもかっこいいと思う。さらに高校に入ってから土木を好きになった出来事がある。それは1月1日に起きた能登半島地震である。私は石川県に住んでおりこの地震を経験した。私の地域では被害があまりなかったが能登半島はとても悲惨な状態になってしまった。建物は崩れ、道路も壊れた。こんな状況でもすぐに動いたのが土木を仕事としている人たちである。救援部隊がすぐに現地に行くことができるように壊れた道路を整備したり、建物の下敷きになっている人を助けたり。私はその時まで土木という仕事は誰かを助けたり、救ったりする仕事では無いと思っていた。だが実際は違った。人の命を助け、たくさんの人を救っていた。こんなかっこいい仕事は他にないだろうか。

話を戻すと「どの科が一番かっこいいか」やはりどの科も違ってどの科もいい。だが特別私が土木にかける思いは人一倍強い。この強い思いを掲げこれからの土木作業に情熱を注ぎこれから多くの人を支えられるような存在になるために技術を磨き、たくさんの人々の命やこれからの時代を支える建物の基盤を作っていく、これからの土木業界を支える柱のような存在になりたい。

今月の「輝き！」さん
No. 117



株式会社吉光組	くぼもとき 久保心輝さん
所 属：工事部	
経験年数：2年8カ月	
年 齢：21歳	

加賀市柴山町の現場事務所に「今月の輝きさん」を訪ねました。

—あなたの会社について教えてください。
弊社は、小松市長崎町に本拠を置く、大正2年創業の総合建設会社です。技術と信頼を大切に、土木建設工事のコンサルティング及び施工、建築工事の設計施工に加え、土質改良事業、注文住宅、住宅リフォームの設計施工を手掛けています。私は工事で、現場が円滑に進むよう、工程・品質・安全・予算等の管理業務を行っています。

—素敵なお名前ですね。
文字のとおり「心が輝く人になるように」と願い名付けられたと聞いていますが、なかなか「もとき」と読める人はいません。

—建設業を選んだ理由、入社した動機等について教えてください。
私は、家を建てる様子を見て建築に興味を持ち始め、金沢市内の工業高校に進んで土木を学ぶうち、規模が大きな土木工事に強い興味を持ち建設業を選びました。同級生が金沢で就職先を探す中、自分は自宅からそう遠くない小松市で探し始めたところ、ICT建機や3Dデータ、地盤改良等の様々な最新技術に率先して取り組んでいた吉光組に魅力を感じ、入社させていただきました。

—仕事の苦勞や、やりがいを感じるのとはどのようなときですか？
現場は、決まった段取り通り進むわけではなく、特に複数の作業が同時進行する時や複数の業者さんとの作業では、事前準備の必要性を痛感します。常に「何か見落としがあるのではないか。」と考えて準備するよう心がけています。自分が携わったものが目に見えて形となった時、「この道を選んで良かった。」とやりがいを感じますし、公共性の高い仕事なので使命感をもって頑張っています。

—これまで思い出に残る現場はありますか？
昨年9月に途中参加した「川北町地内の護岸新設工事現場」で、初めての大きな現場であり、扱う土砂の量や工事規模に圧倒されました。また、昨年、災害復旧工事に出動し、門前町地内の道路啓開を行いました。現場の酷さが衝撃的でした。

—将来の夢や目標はありますか？
当面の目標は、土木施工管理技士2級試験の合格と、フォークリフトやドローンを扱えるようになりたいと思います。会社が資格取得を積極的にバックアップしてくれるので、入社後、車両系や玉掛け、移動式クレーン等を取らせて貰い、今後も現場で役に立てるよう様々な資格を取りたいと思います。

—休日はどのように過ごしていますか？
基本、土曜日・日曜日・祝日は休みで、今年の夏ごろから近所のジムに通い筋トレを始めました。250ccのバイクに乗っていますが、隣県程度にしか出かけられていません。

—最後に建設業を目指す後輩たちに一言。
建設業は、肉体労働や力仕事のイメージがありますが、パソコンやタブレットを駆使する作業もあり若者が活躍できる場が多いと思います。是非、チャレンジしてください。吉光組は、先輩方が優しく色々声をかけてくれますし、明るい雰囲気ので働ける会社ですので、一緒に頑張りましょう。



けんせつ一番星☆

[-Sunset Express-MOVE]
毎月第4火曜日 18:00~18:05



エフエム石川で毎回、建設業界で働く業界のホープ「けんせつ一番星☆」の方にインタビューし建設業界の魅力や仕事への意気込みなどに迫ります。是非お聞きください。

協会だより

(一社)石川県建設業協会・石川県総合建設業協同組合理事会の開催

開催日時 令和6年12月19日(木) 14:00~15:00
 開催場所 金沢東急ホテル
 出席者 正副会長、常任理事、理事、幹事、事務局 計60名

概要

石川県建設業協会理事会では、冒頭、令和6年秋の叙勲で旭日双光章を受章した鶴山庄市会長に役員一同から金杯(目録)が贈呈されました。続いて事務局から、奥能登豪雨災害への義援金、今後の主な日程、令和6年度事業執行状況、会員受注高、石川県12月補正予算の概要、建設業をめぐる最近の話題等について報告が行われました。



会議状況



鶴山会長への金杯(目録)贈呈

引き続き開催された石川県総合建設業協同組合理事会では、令和6年度中間事業報告が行われました。

建設青年委員会

◎全国建設青年会議第29回全国大会への参加

全国建設青年会議第29回全国大会(近畿建設青年会議主催)が、12月6日(金)午後1時30分よりリーガロイヤルホテル東京にて開催され、北陸ブロックから26名、当県から、明翫圭祐委員長をはじめ6名が参加しました。来賓には、森 昌文内閣総理大臣補佐官をはじめ、高橋克法国土交通副大臣、佐藤信秋参議院議員(ビデオメッセージ)、足立敏之参議院議員(ビデオメッセージ)、大石久和氏、国土交通省からは廣瀬昌由国土交通省技監並びに各地方整備局調整官等16名、全国建設青年委員600名余の出席がありました。

〈特別講演〉

「国土交通情勢をめぐる話題」

国土交通省 技監 廣瀬昌由氏

〈各ブロック登壇企画〉

「シン・建設青年人」

各ブロック選出のシン・建設青年人9氏(発言順)

- ・中部ブロック 安藤雄紀氏 (安藤建設(株))
- ・近畿ブロック 小森脩平氏 ((株)小森組)
- ・東北ブロック 結城 創氏 (中城建設(株))
- ・九州ブロック 福地一仁氏 ((株)福地組)
- ・北海道ブロック 砂子晋太郎氏 ((株)砂子組)
- ・四国ブロック 西山剛輔氏 ((株)愛亀)
- ・中部ブロック 岡田 司氏 (岡田建設(株))
- ・北陸ブロック 鶴山雄一氏 (加賀建設(株))
- ・関東ブロック 湯沢 信氏 (湯澤工業(株))

〈大会宣言〉





建設事業主のみなさん

「建設技能者の人材確保・育成」「現場作業員の福祉の向上」
のために建退共制度に加入しませんか!

建設業の退職金は
日本全国どこの現場でも
公共工事も民間工事も

建退共



独立行政法人 勤労者退職金共済機構
建設業退職金共済事業本部
〒170-8055 東京都豊島区東池袋1-24-1 TEL 03-6731-2866



建退共



お問い合わせは

建退共石川県支部

〒921-8036 金沢市弥生2-1-23 (石川県建設総合センター1F)
TEL076-242-2608(代) FAX076-241-9258

ますます安心。充実の制度。



契約者割戻金制度が始まっています。

契約者
割戻金制度により
**掛金負担が
軽減**

手厚い補償
保険金区分合計
最高**5,000万円**

労働者と企業の
**リスクを
カバー**

社員と家族、会社を守るために。

建設共済保険

法定外労災補償制度

今すぐ、ご加入を!

「建設共済保険」の他にも、次のような事業を行っています。

育英奨学事業

被災者(死亡および障害・傷病3級以上)の子供に対して、要保育期間および小学校から大学までの在学期間中、返済不要の奨学金を継続して給付。

労働安全衛生推進事業

- ① 安全衛生用品の頒布
- ② 女性専用トイレ・更衣室導入費用の助成
- ③ 安全衛生推進者表彰 等

公益財団法人

建設業福祉共済団

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-2-8 虎ノ門琴平タワー 11階

■ 取扱機関：(一社)石川県建設業協会
〒921-8036 金沢市弥生2-1-23
Tel. 076-242-1161 Fax. 076-241-9258



正確な掛金の試算や資料請求はこちらまで



0120-913-931

受付時間 午前 9:00 ~ 午後 5:00 (土日祝を除く)

建設共済保険

検索

<https://www.kyousaidan.or.jp/>



この冊子は、植物油インキを使用し、環境にやさしい「水なし印刷」を採用した印刷物です。